

「糖尿病患者における個人栄養指導の影響」

【研究の目的・意義】

国内の糖尿病患者総数は増加の一途をたどっており、糖尿病患者の高齢化や合併症の進展とともに糖尿病患者における寝たきり総数も増加し、大きな社会問題となってきている。糖尿病治療目標は、糖尿病合併症の発症・進展を阻止し健康な人と変わらない日常生活の質の維持、寿命の確保である。患者の生活様式は多様化しており、患者高齢化もあり患者ライフステージも多様化している。糖尿病治療は、多様化した患者個人を理解し、その生活に寄り添った治療を提案することが重要となっている。

食事療法は糖尿病治療の基本であり、各自の長期に渡る食習慣を勘案しながら、細やかに個別対応の食事指導を実践継続することが最重要項目の一つとされている。そこで、糖尿病患者における個別栄養指導の代謝への効果と患者背景の関連性について明らかにし、糖尿病患者の健康寿命の延長に結びつく食事療法の重要性を科学的に実証することを目的とする。

本研究によりこれらの事が解明されれば医学的貢献は多大であると考ええる。

【研究対象者】

杉村病院受診している2型糖尿病患者で

- ・登録時に20歳以上の男女
- ・HbA1c 7.5%以上
- ・外来主治医が個人栄養指導を提案した患者

を対象とし、2型糖尿病患者（100名）を予定する。

除外する対象は、

- ・抽出後連続6か月以上の定期外来受診ができなかった患者
- ・アンケート（食生活や心理面など）に協力いただけなかった患者
- ・観察期間前2か月から観察期間終了までに他疾患も含めた2週間以上の入院歴のある患者
- ・妊娠予定、妊娠中、授乳中の患者
- ・研究責任者が研究への組入を不適切と判断した患者
- ・本病院ホームページ上のオプトアウトで申し出のあった患者とする。

【研究の期間】

2020年7月10日から2024年3月31日まで